

第62回 神戸市文化財保護審議会 議事録

(1) 日時 令和8年3月17日(火) 14:30～16:00

(2) 場所 市役所1号館14階 AV1会議室

(3) 出席者

(委員) 10名

菱田委員、市澤委員、黒田委員、橋寺委員、大林委員、
大江委員、藪田委員、村上委員、林委員、石丸委員
※欠席委員 中江委員、筒井委員、田中委員

(事務局) 文化スポーツ局長 以下 12名

(4) 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 指定候補諮問物件の調査報告の件

(2) 答申

(3) 事務局からの報告

- ① 月菴宗光関係資料の県指定重要有形文化財の指定に伴う神戸市指定有形文化財の解除
- ② 神戸市文化財保存活用地域計画
- ③ 神戸歴史遺産 認定・助成
- ④ 五色塚古墳館の開館
- ⑤ 海軍操練所跡の暫定整備
- ⑥ 令和8年度事業予算案
- ⑦ その他

3 閉 会

【議事録】

【1】開会

【2】局長挨拶

【3】会議の成立：委員13名中9名出席により会議成立。

遅れて1名出席のため、最終10名

【4】公開・非公開の決定

【5】議事

(1) 指定候補諮問物件の調査報告

① 旧池長美術館

橋寺委員より報告

- ・池長孟が蒐集したコレクションを公開するために昭和13年(1938)に建設された私立美術館
- ・神戸市文書館として使用されていた
- ・自邸の紅塵荘(野崎通4丁目)の近くに位置する
- ・設計者小川安一郎は住友本店臨時建築部に入り、住友関連の設計に関わっている
- ・意匠家として高く評価された設計者
- ・小川安一郎が設計したもので阪神間において現存しているのは池長美術館のみ
- ・藤木工務店が施工、創業者、藤木正一と小川は古い知り合いであり、コンビで手掛けた建物で現存するものは少ない。
- ・開館後、5回の展覧会が開催されたが、戦争の激化により第5回展覧会が最後
- ・池長孟が昭和26年(1951)4月、神戸市に建物とコレクションを移譲
- ・市立神戸美術館、市立南蛮美術館と改称
- ・神戸市立博物館が開館し、コレクションは博物館へ移管
- ・建物は平成元年(1989)以降、神戸市文書館として利用されてきた
- ・配布資料P9～13 建物の特徴の説明
- ・1階の陳列室は改変多し。噴水は文書館になったときに撤去された
- ・2、3階はよく残っている。
- ・2階貴賓室にあったポセイドンの壁画は1階に移されている。

【評価】

- ・当初のアールデコの様式で小川安一郎の力量をよく表した意匠といえる
- ・昭和初期の鉄筋コンクリート造は珍しくないが、コレクションを守らないといけないという観点のもと可燃性のものを避け、タイルを多用しており、池長の意見を積極的に取り入れた美術館といえる
- ・外観、2・3階の陳列室などは旧状を留めており、文化財的価値が保たれている
- ・池長は神戸市立博物館のコレクションも含め、神戸の文化に尽力した人物
- ・池長孟と小川安一郎で形にした建物であり、戦前期の神戸を代表する近代建築の一つ

- ・日本有数の南蛮美術コレクションが入るための建物だった
- ・神戸の歴史を語るうえで欠くことができない歴史的建造物といえる

指定候補物件の質疑応答

〈質疑応答〉（委）：文化財保護審議会委員 （事）：事務局 （会）：会長

（委）P8 下から3行目「小川は装飾分野において目覚ましい活躍をし、意匠家としての技量が高く評価された設計者であった。」は抽象的なので、壁面のデザインなのか、インテリアなのか、具体的に補足できないか。

（委）現存が少なく、小川は企業の建築部で働いており個人としての設計作品はそれほど多くはない。インテリア装飾に力があつた人。住宅を中心に建物を設計する人であつた。

（委）P9 竣工時の平面図が残っている。附指定として残せないか。

（事）現在、図面の数が定まっておらず、整理ができれば附指定として諮問させていただきたい。

（委）いつごろになりそうか。目途を聞かせてほしい。

（事）資料の所蔵は博物館と池長家である。所有者の都合もあり時期を申し上げることはできないが、必ず進める。

（委）青焼き図面は保存されにくい。保存されることを担保したい。早急に追加指定してほしい。

（会）神戸市には保存科学を専門とする職員もいるので、一括して保存し、できるだけ早く附指定を。

（委）附指定したかったが、市立博物館では池長コレクション全体を再整理中であり、図面類は未整理であるため今回の報告では図面には触れなかった。ぜひより良き保存策を。

（委）写真を撮って保存をした方が良い。

（会）劣化が進むものはできるだけ早く手を打つというのは基本。市をあげて取り組んでほしい。

P8を補足してほしいという意見については報告文を補うということによいか。

（委）図面が残っていることが重要。評価に加えたらどうか。

（委）附指定を後日目指すということになるので記載を迷ったが、報告文に追記する。

（委）写真はあるのか。

（事）スキャニングは行っている。写真は一部ある。

（委）酸性紙だと思うが、脱酸すれば保存できる技術が確立されている。修復保存業者に依頼すればすぐ保存処置できると思う。

（会）図面の重要性を指摘いただいたうえで、その保存についてのアドバイスをいただいた。以上の意見を踏まえて事務局で対応を。

諮問の時から様々な意見をいただき、調査が進められてきた。ここで本審議会としての意見をまとめたい。答申案を配布してください。

(2) 答申

〈答申案配布〉

〈答申案を読み上げ〉

(会) 報告文については審議会での意見を踏まえて追記したうえで、諮問物件は神戸市指定有形文化財に指定することを適当とするのしたいが、いかがか。賛同される方は挙手を。

〈全員挙手、答申案議決〉

(3) 事務局からの報告

- ① 月菴宗光関係資料の県指定重要有形文化財の指定に伴う神戸市指定有形文化財の解除
- ② 神戸市文化財保存活用地域計画
- ③ 神戸歴史遺産 認定・助成
- ④ 五色塚古墳館の開館
- ⑤ 海軍操練所跡の暫定整備
- ⑥ 令和8年度事業予算案

〈事務局より説明〉

〈質疑応答〉

(委) 海軍操練所跡は露出展示で遺構の存在する場所は砂地のようだが、遺構の保護は大丈夫か。

(事) 奈良文化財研修所 脇谷室長に助言をいただいている。雨水はすぐに浸透するので遺構の現状を大きく損ねることはないだろうとのことである。

(委) 台風や津波は大丈夫か。

(事) 5年から10年間の暫定整備を計画しており、その間モニタリングを実施し、本整備において課題を解決していきたい。

(会) モニタリングは脇谷室長にさせていただけるのか。素人には難しいのでは。

(事) 脇谷室長の指導のもと進める。

(会) 暫定整備期間を利用してより良い見せ方、保存方法を考えるということですね。

(委) 山城について、興味深いプロジェクトである。中世の石垣・土塁の変遷は面白い。子どもたち用にも実践的なプログラムを作っていってほしい。

(事) 今回整備するアプリは既存のものを利用。解説に想像図や動画なども入れていたらと考えている。さまざまな年代層に届くよう魅力的なプログラムにしていきたい

い。

(会) 既存のアプリは「西播磨の山城」「中播磨の山城」とあるが、ここの山城は「何の」山城になるのか。

(事) 「神戸の山城」になる。

(委) 当面の対象は5か所のうち3か所の山城だが、残り2か所の山城についても事業を進める予定はあるのか。

また、「ボランティア組織の構築と育成」については、地元組織はあるのか、あるいは一から構築するのか。

(事) 残り2か所である、道の駅が近くにある淡河城と唯一発掘調査をした端谷城は引き続き進めたいと考える。しかし、民有地が多く所有者の了承が必要。「西播磨の山城へGO」ではファンクラブが既にできており、神戸に支部ができたらよいと考えているが、地域と一緒に取り組む必要がある。淡河城ではまずは竹が問題で、伐採していきたいと考えている。

(委) 「神戸の山城」は不自然に感じる。「西摂東播の山城」の方が将来、三木、西宮、芦屋が入ってくることもできるので良いのでは。

(委) 近代都市神戸に山城があることが面白い。宣伝効果は「神戸の山城」でも悪くはない。

(事) アプリの開発元は西播磨県民局なので、市域では区分されていないが、「神戸にも山城がある」ということをアピールしていきたい。

(会) 名称は事務局へ一任で。

(委) 五色塚古墳について。除草剤を長く使うことは良くない。人力で草を抜いてくれるボランティア団体の育成が必要ではないかと以前提案した。現在、古墳内で活動されている団体の状況を教えてほしい。

(事) 地元のNPO法人に管理委託しており、除草と見学者の受付をお願いしている。五色塚古墳特定のボランティア団体はない。葎石には除草剤を使用している。草を抜くと葎石が動いてしまうという問題がある。令和8年度で整備事業は一旦終了予定だが、古墳本体も痛みが出てきている。整備時に新たに葎いた石の斜面の波うちが目立つようになってきた。

(委) 今のところ、無農薬で管理していく方向性ではないということですね。新しい技術でコーティングすることもできる。薬剤を使い続けることは周りへの影響も大きいのでぜひ検討を。

(事) 古墳本体の整備の際に相談させていただく。

(会) 外周の整備と管理の今後の方針について説明を。

(事) 除草剤は葎石の場所だけに使用している。その他は人力で草を刈っている。ガイダンス施設前の周溝については埋めたままで、遺構部分は竹チップの舗装で表示し、その周辺は芝生で整備する予定。

(委) 薬剤を使わない緑地で生き物と子どもたちが触れ合うことは大切なこと。生物

